

## 丹羽氏重の城が東郷町にあった?

3月号は、丹羽氏重(前編)についてのお話でしたが、今回は丹羽氏重の居 城・傍示本城の歴史についてお話しします。

氏重は1584年(天正12年)の「小牧・長久手の戦い」が起こるまでの数 年、短期間ではありますが、傍示本城主としてこの地を治めました。丹羽氏が傍 示本城に入る前は、地元の領主・加藤氏が在城していたと伝わります。その歴史 は鎌倉時代後期にまで遡ります。3代目の加藤時利は祐福寺の造営にも関わっ たとされる人物です。しかしながら、傍示本を丹羽氏が治めるようになった経緯な ど、詳しいことは何も分かっていません。氏重はこの城でどんな暮らしをしていた のでしょうか。傍示本の地を馬で駆け回っていたかもしれませんね。

現在、傍示本公民館の傍に「傍爾本城址」の石碑がありますが、城址は公民 館から南側一帯と推定されています。整地や埋め立てにより、城の遺構※1の状 況は不明ですが、城の東側の断崖は当時のおもかげを残しています。廃城後も 北・南・西の三方に堀※2が残存していたようです。傍示本城は土造りの城で方 形の「城館」であったと思われます。「城館」とは、その土地を治める領主の住居 に堀や土塁※3を巡らせ、防御機能を高めた建物のことです。また、公民館がある 「市場屋敷」の地名からは城下が賑わっていたこともうかがえます。傍示本城は 一体どのような姿をしていたのでしょう。想像は膨らむばかりです。

次回は、傍示本城だけじゃない?東郷町にある丹羽氏ゆかりの城、諸輪北 城・中城についてご紹介します。

- ※1 遺構…昔の建造物や生活の痕跡が地面や地中に残ったもの
- ※2 堀……土を掘って造った溝のこと
- ※3 土塁…土を盛って造った土手のこと

【文】岩崎城歴史記念館 学芸員 内貴健太



傍爾本城址碑(傍示本公民館前)



傍示本城址の区域(伝承)



傍示本城 東側の断崖

◎問い合わせ 生涯学習課 ☎0561 · 38 · 7780



東郷町公式





**見郷町公式** 





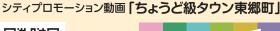
東郷町公式













▲左のコードを 読み取ることで



